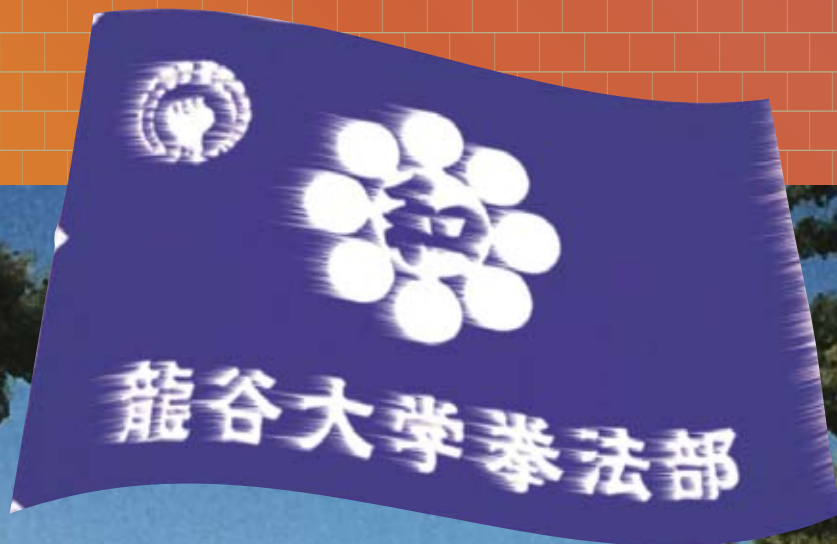




龍谷大学書信部



龍谷大学学友会体育局
日本拳法部
創部40周年記念誌



龍谷大学学友会体育局日本拳法部
OB会 藤友クラブ

龍谷大学学歌

学歌作成委員会 作詞
山田耕筈 作曲

1. 永久に揺がぬ みのり聞き 寄する思想の 波しずめ
久遠の光 まどかなる 真理の大樹 栄ゆけば
見よ黎明の 空澄みて 我等が学府 光輝あれ

2. 仰げば高き 雪山の 姿をうつす 御教に
おもいをはせて たゆみなく 心をみかく 幾千の
同信の友 相集う 我等が学府 光輝あれ

3. 世運の流れ 遷るとも 正法萬古 変わりなし
公孫樹の蔭に 法幢を 真心こめて 守りゆく
若き学徒の 相集う 我等が学府 光輝あれ

日本拳法部創部40周年をお祝いして

龍谷大学
学長 神子上 恵群



龍谷大学学友会体育局日本拳法部の創部40周年、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

本学に深草学舎が誕生して間もない昭和39年に、同学舎にて有志が集い、稽古が始められて以来、この40年の間には、多くのご苦勞もあったかと存じます。

さまざまな試練を乗り越えてここに40年の節目を迎えられましたことは、部長、監督をはじめとする諸先輩方、現役部員そして関係者の皆様方のご努力のたまものと、敬意を表する次第であります。

また、昨年度に続いての全日本学生拳法選手権大会2連覇をはじめとする、近年の日本拳法部の活躍はめざましく、皆様方の活躍は、龍谷大学に元気を与えているとともに、在学生のみならず卒業生にとっても、大きな励みになっているものと確信しています。

日本拳法はスポーツ、格闘技である前に、武道であります。武道は、その文字が示すとおり「武術を極める道」であります。それは技術の修得だけでなく、自己の精神の鍛練なくしては成り立たないものでありましょう。またその精神は、自己を見つめ、自立を確立するという本学の建学の精神に通じるものがあるように思います。

現役部員の皆様におかれましては、本学の日本拳法部に所属していることに誇りを持って、この素晴らしい伝統と精神を受け継いでご活躍されますようお願いしております。

日本拳法部の今後ますますのご発展を心から念じあげ、創部40周年のお祝いの言葉といたします。

ご 祝 辞

日本拳法全国連盟
日本拳法会
会長 小西 丕



龍谷大学日本拳法部が創部四十周年を迎えられ、このたび記念誌を発行され祝賀会を開催されるにあたり心からお喜びを申し上げます。

昭和39年に当時龍谷大学の学生であった啓帙義和氏（現西日本学生拳法連盟会長）を中心に日本拳法部を創部したと聞き及んでおります。爾来わずか十数年の間に日本の拳法界を席卷する勢いで大きく逞しく成長されました事は、関係者一同の熟知する所であります。その間、創部当時の皆様方の筆舌にあらわせない大変なご尽力、ご努力があったればこそ今日の大成を見たものだと確信致しております。

その後多くの素晴らしい人材が日本拳法のあらゆる部門に次々と送り込まれております。その一人一人がそれぞれの各分野で大活躍をして頂いております事は会の代表者としても実に心強い限りであります。特に近年私達の日本拳法も国内はもとより国際的な広がりが大きくなって参りました。世界の各国で日本拳法の同好の士が活躍し、その裾野を広げる努力を続けて頂いておりますのもご案内の通りでございます。その中にあっても龍谷大学日本拳法部現役の諸君やOBの皆様が力を合わせてご活躍頂いております事にも有り難く感謝致しておる所でもございます。

本会におきましても皆様方のご活躍の成果を継承・発展させ、あとに続く若い人々に更なる夢と希望を与えて活躍して頂きたいと願う所でございます。その為にも貴会の今後に各界から大きな期待が寄せられています。今日迄の四十年の様々なご苦勞や喜びを更に大きく五十年、百年と先を見据えてご活躍、ご発展される事を祈念致しましてご祝辞とさせていただきます。

おめでとうございます。

創部四十周年に華添えて

龍谷大学学友会体育局
日本拳法部
部長 御前 進



創部四十周年だとか。わたしが龍谷大学に着任して三十八年だから、わが拳法部のほうが二才先輩だということになる。その四十周年記念事業に学生たちが、全日本大会制覇という偉業を成し遂げて、華を添えてくれた。おめでとう、そしてありがとう、と心から言いたい。

だが今年度は、西日本大会創設以来の連覇記録が途絶えた年であることも記憶に留めておきたい。わたしはむしろ、その記録途絶のほうについて思いを述べたい。不名誉の記録としてでなく、「華」としてである。

どの年度にも、優勝を競り合える技量を持つ大学が西日本で4～5校、全日本で7～8校ある。そのなかで、控え選手(部員)から応援陣(OB)まで含めて作り出す心気を受けて、心技一致させ波に乗ったレギュラーたちが栄光に輝いてきた。龍大拳法部がそんななかの1校の座を占めるようになったのは、十年くらい前からである。創部三十年を経てトップグループに上り詰め、それ以来ずっとその座を維持し続けてきたのである。それは決して自惚れや世辞でなく、衆目の一致する事実だと言ってよいだろう。そのことこそが、四十周年に添える華だとわたしは思う。優勝かベスト四に終わるかはその場の雰囲気によるところ大だが、日頃の鍛錬(OBまで含めた心技体の相互錬磨)が実を結ぶのはトップグループに入れるかどうかという点においてだからである。

さらに言えば、連年好成績を残しているのは現役生だけではない。社会人大会や一般個人選手権においても、いまや龍大拳法が落とす陰ほどの大学、どの道場の拳法にも引けを取らないものになっている。この四十年間に、日本拳法全体の発展に責任を負うべき立場にまで、龍大拳法が育ったと言い換えられよう。そうした立場からみれば、ひとり龍谷大学だけが連年優勝し続けているということは、手放しで喜んでよいことではない。それは、龍大だけがぶっちぎりの技量を持っているということ、逆に言えば拳法界の層の薄さを意味するからである。ちょっとした隙を突かれると優勝がさらわれるという、そんななかで勝ちつ負けつしながら競い合っていてこそ、心身両面が培われる。途絶えた栄光は、より高い場で再奪取するチャンスなのである。その点を考えれば、連覇途絶もまた記念行事に添えられた華だということになる。

さて、かく言うわたしも後2年で着任40周年、こちらはとでも添える華などできそうにないが、定年退職という記念行事を迎えることになっている。学内ではすでに一切の役職から退いているが、気がかりなのは拳法部部長の跡取りである。OB諸氏でも学生諸君でも、当該の先生にはわたしからお願いに上がってもいいと思っているので、これとは思う人がいれば声を掛けて欲しい。新部長が決まればわたしも現役を引退して、その後はOB会の1メンバーにしてみらおうと思っている。名誉五段をいただくまでに馴染んだクラブを、完全に去ってしまうには後ろ髪を引かれる気持ちなので。

「友あり、遠方より来る……」

龍谷大学学友会体育局
日本拳法部
監督 啓 帛 義 和



「創部40周年」「第48回全日本学生拳法選手権大会優勝」祝賀会が多数のご出席のもと開催されます事を感謝致します。

今年度は春、夏の前期においては個人優勝はありますが、団体戦で大きな旗には届かず平成14年度我々としては2度目の全冠制覇の反動の厳しさを感じていましたが、合宿を挟んで後期、部員たちは山口主将のもと良くまとまり、試合にでる選手達は勝利に執着するようになり結果的に全日本学生選手権の団体、個人戦共「連覇」をなしとげることが出来ました。部員諸君の頑張りに拍手を贈りたいと思います。

40年を顧みれば山・谷あり海拔0メートルあり深草学舎は旧練兵所跡、前の通りも「師団街道」進駐軍接收施設の払い下げ、建物は全体に青か緑のペンキ一色塗り、トイレは当時としては進んだ洋式ただし裾が切れた足元まるだし型ドアが多くあり、芝生に噴水と簡素な学内でした。払い下げの条件で建物を取りこわしは余り出来なかったようで当時最新の校舎が旧13号館で今も頑張っているはず、学部も経済学部、文学部、短期大学部とこじんまりとしていましたが学内は活気に満ちていた様に思います。順次経営学部、法学部と学部が増え充実していくが学園紛争の嵐が龍大にも吹きあれ大宮学舎にも学生デモがおよび深草学舎封鎖、解除と大変な時代もありました。今は滋賀県の瀬田にも学舎が出来40年の変遷を感じています。

昭和50年「第20回関西学生拳法選手権大会」の初優勝は跳び上るほど嬉しく忘れることは有りません。平成5年「第38回全日本学生拳法選手権大会」初優勝は嬉しくて声もでなかった記憶があります。OB、OGの方々の各地域での活躍も励みになっています。

様々な結婚式に招かれたり、昇進しました、住職になりました、おじいさんになりました等の便り、反面会社がダメになったり練習中不慮の事故で大怪我をしたり部員死亡の悲しい出来事やすでに鬼籍に入ったOB、その度毎に付き合っている部長の御前進先生、副部長の岡部修先生はじめ多くの先生に感謝いたしております。

今世紀には大学の形態はどのようなになるのだろうか「飛級」を含め6、3、3、4という年次体系に変化はあるのだろうか、我々の属している格闘技系サークルはどのような方向に進むのだろうか、日本拳法部は試合を含め競技性を追及していくのか日常の活動を含め「強い龍大」で在りたいのですが……

昭和39年龍谷大学に日本拳法部が誕生し平成16年、40年の歳月を経た。発足した年は「東京オリンピック」今年は「アテネオリンピック」で歳月は変われどオリンピック開催年はスポーツ、体育が盛んになる世相に応じてスポーツ界の流れも変化する。学生スポーツ界も同じです。日本拳法部も40年の歴史の上に立ち、その対策を講じて21世紀を活動して行かなければならないと思います。

おわりになりましたが大学当局を始めOB、OG、各位多くの皆様のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

創部 40 周年を迎えて

龍谷大学学友会体育局
日本拳法部 OB 会・藤友クラブ
会長 宍戸 和之



本日創部 40 周年を、OB 及び現役の大いなる活躍の中で、無事に迎えられたことを心から感激いたしております。

40 年の月日は、経済情勢ひとつをとりましても、毎年のごとく右方上がりの状況が続きそして未曾有のバブルと化し、バブル崩壊後の景気は低迷化し続ける中で、社会情勢も大きく変化しようとしています。

龍谷大学も私どもが入学した昭和 41 年（1966 年）当時と比べてみても、総合大学へと大きく飛躍しておりますし、「偏差値」とかいう物差しで学生を見れば、私どもの時代とは隔世の感があるように言われているようです。が、その時代に学んだ我々の方がバイタリティーもあって、楽しい学生生活を送り社会人になっても頑張っているし、今の学生さんには負けないよと自負しております。

ただ負けるのはわが拳法部の学生さん。ここ十数年、西日本（前関西大会）、全国選抜、全日本大会などの大学団体戦で常に上位常連校として活躍してくれていることです。毎年 2 人から 3 人の推薦入学の影響が強くありますが、自分たちの意思で入部してくる一般学生の頑張りが、今の拳法部を支えているものと思います。そして、OB 達の活躍、中でも総合選手権通算 6 度目の優勝を飾っている佐藤隆之、社会人大会 3 連覇の原動力、増田敦己、山川剛史、中根央貴、岸本健志、などの OB 達、また日本拳法の普及充実にと京都府連盟、熊本県連盟、滋賀県連盟（設立準備中）など会員が活躍していることは本当にうれしい限りです。

今後、藤友クラブにおきましては、益々充実した活動を行ってまいりたいと考えておりますので、日本拳法のシンボル旗「和」のもとにさらに多くの会員の皆様が結集していただけるようお願い申し上げます。

最後になりましたが、今日お集まりいただきました皆様方に厚くお礼を申し上げますとともに、今後更なる活躍とご健勝を祈念いたしまして、40 周年のご挨拶といたします。

合掌

創部40周年にあたり

龍谷大学学友会体育局
日本拳法部
主将 山口 大 輔



創部40周年おめでとうございます。

このような記念の年に、私を主将に選んで頂き、本当に感謝しています。

今年は創部40周年という事もあり、絶対全国制覇するという目標に向かって、部員一同、必死で努力してきました。そしてその結果、最後の全日本学生拳法選手権大会で、全国制覇という目標を達成でき、本当によかったです。この全日本学生拳法選手権大会で優勝できた事により、私自身なんとか主将の役目を果たせたと思っています。そして全国制覇を達成できた事も、私が主将として一年間務められた事も、先生方、先輩方、同期、後輩といった様々な方々に支えてもらい、力を貸していただいたからだと思っており、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私が拳法部に所属した4年間は40年の歴史の中のほんの一部ですが、龍谷大学日本拳法部の歴史の中に居れた事は本当によかったと思っています。これからも龍谷大学日本拳法部がより発展していく事を心より望んでいます。

平成15年度 日本拳法部 名簿

部長	御前	進	
副部長	岡部	修	
監督	啓帙	義和 (2期)	
筆頭コーチ	眞原	正二 (5期)	
コーチ	北田	晃久 (21期)	・ 沖田 真治 (28期)
	荒木	竜也 (29期)	・ 佐藤 隆之 (30期)
	増田	敦己 (30期)	・ 山川 剛史 (32期)

[4回生]

主将	山口	大輔 (四段・文学)	大阪高
副将	北川	信行 (参段・経営)	日生第一高
主務	安田	明宏 (三段・経済)	四天羽曳野高

[3回生]

副務	横林	哲弥 (参段・経営)	大淀高
会計	吉村	賢侍 (初段・法学)	清風高
	梅野	孝明 (四段・文学)	大阪高
	西光	栄一 (参段・経済)	柏原高
	坂本	直哉 (参段・法学)	天理高
	中塚	泰輔 (三段・理工)	玉川高
	白石	寿信 (三段・文学)	宇佐高

[2回生]

	上村	公謙 (参段・法学)	三重高
	片	洸宇 (参段・経済)	愛知朝鮮高
	二宮	工 (三段・経済)	寝屋川高
	古川	怜 (初段・経済)	大成高
	後藤	岳彦 (公級・法学)	摂陵高

[1回生]

	岩尾	篤 (参段・経済)	阿蘇清峰高
	高原	真之介 (三段・文学)	柏原高
	金枝	祐介 (初段・文学)	鴨沂高
	福田	貴章 (初段・社会)	東山高
	村尾	拓也 (公級・文学)	阪南高
	岸本	圭史 (公級・国際文化)	倉敷古城池
	有隅	博徳 (公級・法学)	栄東高
マネージャー	鈴木	亜里沙 (文学)	市岡高

龍谷大学略年表

西曆	元号	龍 谷 大 学
1639	寛永 16	本願寺派学寮として創設される。後に学林に改称。
1876	明治 9	本派の学制により大教校となる。
1879	明治 12	大教校（現大宮学舎本館・南北両翼）落成する。
1888	明治 21	大学林条例を發表し、考究院・内学院および文学寮の二院一寮制を採用する。
1900	明治 33	学制を更改し、仏教大学とする。
1905	明治 38	仏教大学、専門学校令により認可される。
1922	大正 11	大学令による大学設立の認可をうけ、龍谷大学と改称する。
1949	昭和 24	新制大学令により新制大学文学部（4年制）として認可される。
1950	昭和 25	短期大学部仏教科を設置する。
1953	昭和 28	大学院文学研究科修士課程（真宗学真宗史専攻、仏教学仏教史専攻）を設置する。
1955	昭和 30	大学院文学研究科博士課程（真宗学真宗史専攻、仏教学仏教史専攻）を設置する。
1960	昭和 35	親鸞聖人700年大遠忌記念事業として伏見区深草に深草学舎を開設する。
1961	昭和 36	経済学部経済学科を設置する。
1962	昭和 37	短期大学部に社会福祉科を増設する。
1963	昭和 38	経済学部経営学科を増設する。
1966	昭和 41	経営学部経営学科を設置する。 大学院文学研究科修士課程と博士課程に真宗学、仏教学、哲学、国史学、東洋史学、国文学各専攻を設置する。（真宗学真宗史、仏教学仏教史各専攻廃止）
1967	昭和 42	大学院文学研究科修士課程と博士課程に英文学専攻を設置する。
1968	昭和 43	法学部法律学科を設置する。文学部社会学科を設置する。
1971	昭和 46	大学院文学研究科修士課程に社会学・社会福祉学専攻を設置する。
1972	昭和 47	大学院法学研究科法律学専攻修士課程を設置する。
1974	昭和 49	大学院法学研究科法律学専攻博士課程を設置する。
1982	昭和 57	大学院経済学研究科経済学専攻修士課程を設置する。 大学院経営学研究科経営学専攻修士課程を設置する。
1984	昭和 59	大学院文学研究科社会学・社会福祉学専攻（修士課程）を分離し、博士課程に社会学、社会福祉学各専攻を設置する。

西暦	元号	龍谷大学
1985	昭和 60	大学院経済学研究科経済学専攻博士課程を設置する。 大学院経営学研究科経営学専攻博士課程を設置する。 留学生別科を設置する。 短期大学部専攻科仏教専攻を設置する。
1989	平成元	創立350年記念の一環として、瀬田学舎に、理工学部数理情報学科、電子情報学科、機械システム工学科、物質化学科および社会学部社会学科、社会福祉学科を設置する。
1991	平成 3	大学院社会学研究科社会学専攻、社会福祉学専攻（修士課程・博士課程）を設置する。
1992	平成 4	文学部仏教学科真宗学専攻、文学科国文学専攻、文学科英文学専攻を真宗学科、日本語日本文学科、英語英米文学科に改組する。 法学部政治学科を設置する。 短期大学部専攻科福祉専攻を設置する。
1993	平成 5	大学院理工学研究科数理情報学専攻、電子情報学専攻、機械システム工学専攻、物質化学専攻（修士課程）を設置する。
1994	平成 6	大学院文学研究科教育学専攻（修士課程）を設置する。
1995	平成 7	大学院理工学研究科数理情報学専攻、電子情報学専攻、機械システム工学専攻、物質化学専攻（博士課程）を設置する。
1996	平成 8	国際文化学部国際文化学科を設置する。 大学院文学研究科国文学専攻を日本語日本文学専攻に、英文学専攻を英語英米文学専攻に名称変更する。
1997	平成 9	文学部、経済学部、経営学部に昼間主・夜間主コース開設
1998	平成 10	社会学部地域福祉学科、臨床福祉学科を設置する。
2000	平成 12	大学院国際文化学研究科国際文化学専攻（修士課程）を設置する。 大学院文学研究科教育学専攻（博士課程）を設置する。
2002	平成 14	大学院国際文化学研究科国際文化学専攻（博士課程）を設置する。
2003	平成 15	理工学部情報メディア学科、環境ソリューション工学科を設置する。

日本拳法部・藤友クラブ（OB会）略年表

西暦	元号	日本拳法部・藤友クラブ
1964	昭和 39	深草学舎において同好の志 20 名程度が集まり、旧 8 号館において稽古を始める。
1965	昭和 40	龍谷大学日本拳法部同好会となる。故 乾龍峰 師範に師事。
1966	昭和 41	龍谷大学学友会体育局認定同好会となる。
1967	昭和 42	龍谷大学学友会体育局日本拳法部となる。小林袈裟治経済学部助教授就任。 第 12 回関西学生拳法選手権大会初出場。 第 12 回全日本学生拳法選手権大会初出場（ベスト 8）。 愛知学院大学と定期戦を結ぶ。
1968	昭和 43	第 13 回関西学生拳法選手権大会 4 位。 龍大・同大・立命大・京産大の 4 校で京都リーグ戦発足（準優勝）。 中村哲経済学部助教授が部長に就任。 啓帛義和（2 期）監督就任。
1969	昭和 44	大塚圭介経済学部助教授が部長に就任。
1970	昭和 45	御前進経済学部助教授が部長に就任。 第 3 回京都学生拳法リーグ戦初優勝。 OB会発足、規約を制定、会員 21 名。 〔幹事長〕 啓帛義和 〔副幹事長〕 田中孝嗣・三間康和 〔企画長〕 吉田忠司・宍戸和之 〔財務長〕 吉川行義 〔連絡員〕 團利蔵・河崎修二
1971	昭和 46	北畑春男（6 期）関西学生拳法個人選手権準優勝。 OB会幹事長に三間康和（3 期）、副幹事長に吉川行義（2 期）・川崎修二（4 期） 及びコーチに真原 正二（5 期）が就任。 OB会の名称を「藤友クラブ」と決定。 （本願寺のご紋が「下がり藤」であり、その藤に集うという意味合いを持つ）
1972	昭和 47	佐藤公信（7 期）関西学生拳法個人選手権準優勝。
1973	昭和 48	大門英夫（8 期）全国学生個人選手権大会準優勝。関西学生拳法個人選手権準優勝。 OB会長に吉川行義（2 期）、副会長に吉田忠司（2 期）・團利蔵（3 期）・宍戸和之（4 期） 就任。
1974	昭和 49	日本拳法部創部 10 周年記念を実施。 全日本社会人拳法選手権大会初出場。 大門英夫（8 期）コーチに就任。
1975	昭和 50	第 20 回関西学生拳法選手権大会初優勝。 OB会主催祝賀会举行、京都四條。西尾 元秀（10 期）最優秀選手賞受賞。 第 8 回京都学生拳法リーグ戦優勝。



西暦	元号	日本拳法部・藤友クラブ
1976	昭和 51	<p>第 21 回全日本学生拳法選手権大会 準優勝 大野修成（11 期）技能賞受賞。</p> <p>兵庫県「志んぐ荘」にて OB会臨時総会を開催。</p> 
1977	昭和 52	夏季合宿中、事故発生・翌年度の試合出場自粛。
1980	昭和 55	岡山県「湯の郷温泉」にてOB会総会。
1982	昭和 57	第 15 回京都学生拳法リーグ戦準優勝。
1988	昭和 63	<p>第 21 回京都学生拳法リーグ戦優勝。</p> <p>第 33 回関西学生拳法選手権大会ベスト 4。</p> <p>北田晃久（21 期）コーチ就任。</p> 
1989	平成元	第 22 回京都学生拳法リーグ戦優勝。
1990	平成 2	<p>第 23 回京都学生拳法リーグ戦優勝。</p> <p>第 3 回全国選抜大学選手権大会 3 位。 沖本雅春（26 期）敢闘賞受賞。</p> <p>第 35 回関西学生拳法選手権大会準優勝。</p> <p>山口綱己（25 期）第 6 回全日本学生拳法個人選手権大会準優勝。</p>
1991	平成 3	<p>第 4 回全国選抜大学選手権大会準優勝。沖本 雅春（26 期）敢闘賞受賞。</p> <p>第 36 回関西学生拳法選手権大会ベスト 4。</p> <p>第 24 回京都学生拳法リーグ戦優勝。</p> <p>OB会・藤友クラブ役員選任。</p> <p>〔顧問〕 御前進・岡部修 〔参与〕 乾耕蔵 〔会長〕 宍戸和之（4 期） 〔副会長〕 田中孝嗣（3 期）・河原善雄（13 期）・辻義弘（18 期）〔監査〕 吉田忠司（2 期） 〔幹事長〕 関東地区 山口綱己（25 期）、中国地区 信楽光二（18 期）九州地区 北村直登（4 期） 拳法部役員〔監督〕 啓帛義和 六段（2 期） 〔筆頭コーチ〕 真原正二 六段（5 期） 〔コーチ〕 大門英夫 四段（8 期）・北田晃久 四段（22 期）</p>
1992	平成 4	<p>第 25 回京都学生拳法リーグ戦優勝。</p> <p>第 5 回全国選抜大学選手権大会 3 位。荒木竜也（29 期）敢闘賞。</p> <p>第 37 回関西学生拳法選手権大会 3 位。荒木竜也（29 期）敢闘賞。</p> <p>荒木竜也（29 期）第 8 回全日本学生個人選手権大会優勝。</p> <p>千葉裕三（29 期）第 8 回全日本学生個人選手権大会 4 位。</p> <p>菅則子・我谷文野の女性OB会々員が誕生。</p>

西暦	元号	日本拳法部・藤友クラブ
1993	平成 5	<p>OB会規約全部改正を総会で議決。 第 38 回関西学生拳法選手権大会優勝。千葉裕三（29 期）最優秀選手賞。 第 6 回全国選抜大学選手権大会初優勝。荒木竜也（29 期）最高殊勲選手賞。 千葉裕三（29 期生）技能賞。 沖田慎治（28 期）第 9 回全日本学生拳法個人選手権大会準優勝。 荒木竜也（29 期）第 9 回全日本学生拳法個人選手権大会 4 位。 第 26 回京都学生拳法リーグ戦優勝。 第 38 回全日本学生拳法選手権大会優勝。沖田慎治（主将）最優秀選手賞。 平成 5 年度大学団体戦 全冠制覇 史上 2 校目。</p> <p>創部 30 周年・全冠制覇祝賀会を大宮学舎「清和館」で挙る。</p>
1994	平成 6	<p>OB会・藤友クラブ役員就任 会計 西尾元秀（10 期）・大阪地区幹事長 堤健蔵（6 期） 第 39 回関西学生拳法選手権大会準優勝 荒木竜也（29 期）敢闘賞 第 27 回京都学生拳法リーグ戦優勝 新人戦 2 位 渡辺昌和（30 期）・3 位 玉崎勝規（30 期） 千葉 裕三（29 期）第 10 回全日本学生拳法選手権大会 3 位 第 39 回全日本学生拳法選手権大会ベスト 8</p>
1995	平成 7	<p>OB会・藤友クラブ規約の一部改正及び慶弔規則を制定 OB会・藤友クラブ役員改選 全国を 9 ブロックに分けて幹事長を設置、都道府県単位でOBが 10 名を超えた場合、 都道府県単位で地区幹事長を設置。 【会 長】 宍戸和之（4 期）【副会長】 田中孝嗣（3 期）、河原善雄（13 期）、辻義弘（18 期） 【会 計】 西尾元秀（10 期）【監 査】 吉田忠司（2 期） 【幹事長】 北海道 安藤親（23 期）、関東 佐藤公信（7 期）、東海 西川康泰（23 期）、 北陸 本多純（8 期）、中国 信楽晃仁（18 期）、四国 行村房夫（6 期）、九州 北村直 登（4 期）、 近畿 堤 健蔵（6 期）、大阪 堤健蔵（6 期）、京都 上川 正則（20 期） 拳法部【監 督】 啓席義和六段（2 期）【筆頭コーチ】 真原正二六段（5 期） 【コーチ】 北田晃久四段（21 期）、山口綱己（25 期）、沖田慎治（28 期） 阪神淡路大震災発生に伴い、兵庫県在住のOB会費免除。 OB・現役合同紅白試都合を開催。 第 40 回関西学生拳法選手権大会ベスト 8 第 8 回全国大学選抜選手権大会ベスト 8 第 28 回京都学生拳法リーグ戦優勝 新人戦 優勝 山川 剛史（32 期）・準優勝 甲斐 千喜（32 期） 第 35 回全日本拳法総合選手権大会 優勝 佐藤 隆之（30 期・龍谷大学勢初優勝） 第 40 回全日本学生拳法選手権大会優勝 荒木 竜也（29 期）最優秀選手賞 藤友クラブ・全日本優勝祝賀会開催</p>
1996	平成 8	<p>第 41 回関西学生拳法選手権大会準優勝 佐藤 隆之（30 期）敢闘賞 第 9 回全国大学選抜選手権大会優勝 佐藤 隆之（30 期）最優秀殊勲賞 藤友クラブ・全日優勝祝賀会開催 第 29 回京都学生拳法リーグ戦優勝 新人戦 優勝 中根 央貴・準優勝 青山 元洋 3 位 荒木 拓也（全て 33 期） 第 12 回全日本学生拳法個人選手権大会 優勝 佐藤 隆之（30 期）準優勝 山川 剛史（32 期） 第 41 回全日本学生拳法選手権大会ベスト 8</p>

西暦	元号	日本拳法部・藤友クラブ
1997	平成 9	<p>第 2 回世界日本拳法大会 英国ロンドンで開催。佐藤隆之選抜され出場。</p> <p>第 1 回西日本学生拳法選手権大会優勝 井上隆 (31 期) 最優秀選手賞・対大阪府立大学戦で 7 人抜き。</p> <p>第 10 回全国大学選抜選手権大会 3 位</p> <p>第 37 回全日本総合選手権大会 藤友クラブ初優勝・準優勝 優勝 佐藤隆之 (30 期・四段) 2 回目の優勝・準優勝 増田敦己 (30 期・四段)</p> <p>第 52 回国民体育大会エキシビジョン大学の部 優勝 佐藤隆之 (30 期・四段)</p> <p>第 13 回全日本学生拳法個人選手権大会 優勝:井上隆 (31 期) 3 位:山川剛史 (32 期)</p> <p>第 30 回京都学生拳法リーグ戦優勝 新人戦 優勝:大西康夫 3 位:岸本健志 (いずれも 34 期)</p> <p>第 42 回全日本学生拳法選手権大会ベスト 8</p>
1998	平成 10	<p>OB 会役員 [幹事長] 堤健蔵 (6 期)</p> <p>[地区幹事長] 中部地区 朝倉良哉 (31 期)、近畿地区 小島晴夫 (3 期)、 大阪地区 佐藤浩二 (15 期)、京都地区 上川正則 (20 期)、兵庫地区 津田大輔 (28 期)</p> <p>拳法部役員[コーチ] 荒木 竜也四段 (29 期)</p> <p>第 2 回西日本学生拳法選手権大会優勝 山川剛史 (32 期) 最優秀選手賞</p> <p>第 11 回全国大学選抜選手権大会ベスト 8</p> <p>第 31 回京都学生拳法リーグ戦優勝 新人戦 準優勝 安田茂雄 3 位 山下和彦 (35 期)</p> <p>第 14 回全日本学生拳法個人選手権大会 優勝 山川剛史 (32 期)</p> <p>第 38 回全日本総合選手権大会 藤友クラブ・現役優勝・準優勝 優勝 佐藤隆之 (30 期・四段) 3 回目の優勝 準優勝 山川剛史 (32 期・四段)</p> <p>第 43 回全日本学生拳法選手権大会 3 位 中根央貴 (3 回生) 技能賞</p> <p>第 3 回世界日本拳法大会 米国ロサンゼルスで開催 藤友クラブから佐藤隆之 (30 期・四段)、増田敦己 (30 期・四段)、 現役から山川剛史 (32 期・四段) が選抜出場。</p> <p>創部 35 周年記念事業開催 (平成 11 年 1 月 31 日(日)大宮学舎において)</p>
		

西暦	元号	日本拳法部・藤友クラブ
1999	平成 11	<p>第 3 回西日本学生拳法選手権大会優勝 大西康夫 (34 期) 最優秀選手賞 第 12 回全国大学選抜選手権大会ベスト 8 第 1 回日本拳法京都府民大会 優勝:山川剛史 (32 期・四段) 準優勝:中根央貴 (33 期・四段) 三位:増田敦己 (30 期・四段) 四位:青山元洋 (33 期・参段) (藤友クラブ・現役ですべてのタイトル奪取) 第 32 回京都学生拳法リーグ戦優勝 新人戦 優勝:花坂栄治 準優勝:森塚祐助 (いずれも 36 期) 第 15 回全日本学生拳法個人選手権大会 準優勝:中根央貴四段 (33 期) 第 32 回全日本拳法社会人大会優勝 第 39 回全日本総合選手権大会 藤友クラブ・現役優勝 優勝:佐藤隆之四段 (30 期) 通算 4 回目 女子の部優勝:藤井本喜世子 (34 期) 第 44 回全日本学生拳法選手権大会ベスト 8</p>
2000	平成 12	<p>第 4 回西日本学生拳法選手権大会 優勝:内田広志 (35 期) 最優秀選手賞 第 2 回日本拳法京都府民大会 優勝:山川剛史 (32 期・四段) 準優勝::内田広志 (35 期・四段) 第 33 回京都学生拳法リーグ戦優勝 第 1 回西日本学生拳法個人選主権大会 [男子] 準優勝:内田広志 (35 期・参段) 三位:花坂栄治 (36 期・参段) [女子] 優勝:上村純子 (36 期・式段) 準優勝:藤井本喜世子 (36 期・参段) 第 13 回全国大学選抜選手権大会優勝 岸本健志 (34 期) 殊勲賞 第 16 回全日本学生拳法個人選手権大会 女子の部 優勝:藤井本喜世子参段 準優勝:上村純子式段 (いずれも 34 期) 第 33 回全日本拳法社会人大会三位 第 39 回全日本総合選手権大会 優勝:佐藤隆之 通算 5 回目 (30 期・四段) 三位:増田敦己 (30 期・四段) 四位:岸本健志 (34 期・四段) 第 45 回全日本学生拳法選手権大会準優勝 岸本健志 (主将) 敢闘賞</p>
2001	平成 13	<p>第 5 回西日本学生拳法選手権大会優勝 花坂栄治参段 (3 回生) 最優秀選手賞 第 3 回日本拳法京都府民大会 優勝:内田広志 (35 期・四段) 準優勝:山川剛史 (32 期・四段) 第 34 回京都学生拳法リーグ戦優勝 新人戦 優勝:梅野孝明 (1 回生) 準優勝:西光荣一 (1 回生) 三位:北川信行 (2 回生) 四位:横林哲弥 (1 回生) 第 2 回西日本学生拳法個人選手権大会 優勝:山口大輔 (2 回生・参段) 三位:内田広志 (35 期・四段) 第 14 回全国大学選抜選手権大会三位 内田広志 (主将) 敢闘賞 第 39 回全日本総合選手権大会 佐藤OB連覇ならず 女子の部 準優勝:薮井里絵 (33 期・参段) 第 17 回全日本学生拳法個人選手権大会 準優勝:真田直彦 (35 期・参段) 第 34 回全日本拳法社会人大会優勝 2 回目 第 46 回全日本学生拳法選手権大会 準優勝 内田広志 (35 期・四段) 敢闘賞</p>

西暦	元号	日本拳法部・藤友クラブ
2002	平成 14	<p>第 6 回西日本学生拳法選手権大会優勝 山口大輔 (3 回生・四段) 最優秀選手賞</p> <p>第 4 回日本拳法京都府民大会 優勝:山口大輔 (3 回生・四段) 準優勝:山川剛史 (32 期・五段)</p> <p>第 35 回京都学生拳法リーグ戦優勝 新人戦 優勝:片洗宇 (1 回生) 三位:上村公謙 (1 回生)</p> <p>第 3 回西日本学生拳法個人選手権大会 準優勝:花坂栄治 (36 期・四段) 三位:山口大輔 (3 回生・四段)</p> <p>第 15 回全国大学選抜選手権大会 優勝:花坂栄治 (36 期) 殊勲賞</p> <p>第 39 回全日本総合選手権大会 優勝:佐藤隆之 (30 期・四段) 通算 6 回目 女子の部 優勝:上村純子 (34 期・参段) 初優勝</p> <p>第 17 回全日本学生拳法個人選手権大会 優勝:花坂栄治 (36 期・四段)</p> <p>第 35 回全日本拳法社会人大会優勝 通算 3 回目</p> <p>第 47 回全日本学生拳法選手権大会優勝 森塚祐介 (36 期) 最優秀選手賞</p>
2003	平成 15	<p>第 7 回西日本学生拳法選手権大会 3 位 山口大輔 (主将・四段) 殊勲賞</p> <p>第 5 回日本拳法京都府民大会 優勝 増田敦己 (30 期・四段) 準優勝 山川剛史 (32 期・五段) 三位 梅野孝明 (3 回生・四段) 四位 山口大輔 (主将・四段)</p> <p>第 36 回京都学生拳法リーグ戦優勝 新人戦 優勝 岩尾 篤 (1 回生・参段)</p> <p>第 4 回西日本学生拳法個人選手権大会 優勝 山口大輔 (主将・四段) 準優勝 梅野孝明 (3 回生・四段)</p> <p>第 16 回全国大学選抜選手権大会準優勝 山口大輔 (主将・四段) 技能賞</p> <p>第 18 回全日本学生拳法個人選手権大会 優勝 山口大輔 (主将・四段) 準優勝 梅野孝明 (3 回生・四段)</p> <p>第 36 回全日本拳法社会人大会優勝 通算 4 回目</p> <p>第 48 回全日本学生拳法選手権大会優勝 西光栄一 (3 回生・参段) 最優秀選手賞</p>





龍谷大学学友会体育局
日本拳法部



藤友クラブ会員名簿
& メッセージ



部長 御前 進

顧問 岡部 修

[卒業年次] [氏名] [学部] [出身高校]

1期 昭和42年(1967) 井上 征四郎 経済 日新高



2期 昭和43年(1968)	啓席 義和	文学	関大一高
	吉川 行義	経済	大谷高
	吉田 忠司	経済	園部高
	谷口 隆	文学	成器高
	辻 邦造	経済	泉尾高
	中村 徹信	文学	水口高
	森田 勝人		



3期 昭和44年(1969)

小島	晴夫	経済	泉尾高
田中	孝嗣	経済	八幡工高
恋田	忠雄	経済	伊丹高
降矢	皓二	経済	平安高
三間	康和	経済	平安高
團	利蔵	経済	初芝高
内藤	忠雄	経済	平安高
森田	敏道		



4期 昭和45年(1970)

北村	直登	経済	平安高
河崎	修二	経済	平安高
広瀬	富男	経済	上宮高
宍戸	和之	文学	大阪高
三谷	易	文学	新庄高

<メッセージ> 北村 直登(4期) 「熱き想いが蘇り」

昭和41年春入学式の為大学の門をくぐると、そこには多くの先輩達が待ち受け次々に声を掛けて来た、クラブ勧誘の為である。今では考えられない風景かもしれませんが、高校からの先輩から声を掛けられ良いクラブがあるよちょっと来いと言われついて行ったのが運の尽きその日から部員になりました。始めの頃は先輩達が良く殴らしてくれましたが、1ヶ月、2ヶ月と過ぎる頃から、だんだん本性が出てきて反対にボカスカ殴られていました。それも今では良い想いでではあるのですが……

最近の現役の活躍を見るにつけ若き血潮が蘇り、又熊本に来て30年経った平成11年の秋、阿蘇清峰高校監督の最上先生から電話があり熊本の日本拳法をもう一度活性化したいので是非手伝ってくれとのこと、初会合に出かけると多くの大学拳法OBが居られました、自衛隊の隊員も居ました。その頃、私は自衛隊を支援する経済団体の事務局長をしていましたので、よし自衛隊に日本拳法を普及させ熊本の拳法界のお役に立てばと想い翌年から仲間と共にまた2年後輩の青木氏も取り込み手伝ってもらい、底辺拡大、県体協加盟申請、熊本大会、道場運営等に力を注いで来ました。熊本は平成16年で5周年ですが龍谷大学拳法部が創部40周年を監督、OB会長等の皆様の並々ならぬご尽力で迎えるのも何かの縁でしょうね。関係各位皆様の益々のご清祥を心から祈念致します。



5期 昭和46年(1971)

山本 益広	経営	布施高
眞原 正二	経営	北淀高
新堂 喜美	経済	成器高
嶋林 政雄	経済	八日市高
平 興隆	文学	池田高
小川 英夫		



6期 昭和47年(1972)

行村 房夫	文学	大崎高
堤 健蔵	経済	箕面高
関 治郎	経済	上宮高
崎 正和	経済	葦合高
北畑 春男	経済	関倉高
青木 祐心	文学	山鹿高
富永 健		

<メッセージ> 行村 房夫 (6期)

龍大拳法部40周年おめでとうございます。卒業してはや30何年、いよいよ頭もうすくなり体も動かなくなりましたが、拳法部で培った気力だけで頑張っております。諸先輩方に、練習でかわいがっていただいたことを今でも思い出すことが出来ます。又近年後輩達が試合で好成績を上げてくれていることを大変誇りに思います。益々の龍大拳法部の発展を心からお祈りします。 合掌



7期 昭和48年(1973)

佐藤 公信	経済	大分舞鶴高
中山 和正	文学	豊北高
長尾 益男	経済	泉大津高
白井 宰	法学	

<メッセージ> 中山 和正 (7期)

このたびは父の葬儀にはご丁寧にも御仏前を賜り誠に有り難うございました。

折角の記念OB会に出席できないということは大変残念です。

昨今は、職業病とも言える変形性膝関節症と付き合っています。体重の増加と筋力の衰えが大敵と聞きましたので、犬を求め、犬の運動を兼ねて自転車で遊んでいます。

確かに老いは確実に忍び寄ってきます。

ご同輩後生の一人事はよろしいですか。



8期 昭和49年(1974)

上原 敏博	文学	佐賀龍高
大門 英夫 (物故者)	経済	枚方高
本多 純 (物故者)	文学	丸岡高



9期 昭和50年(1975)

福本 佳雄	法学	富田林高
藤原 行雄	経済	清風高

<メッセージ> 福本 佳雄 (9期) 「押忍(過去)、毎度(現在)」

昭和五拾年四月希望に満ちて入学、末は弁護士か大臣か・・・

そんな折、キャンパスで学生服をまとった上級生に、『日本国憲法部』に入部しないかと声を掛けられ、風貌からして似つかわしい男であったが言われるままにクラブボックスへ、中では上級生が前席を陣取り、同じ新入生らしき数人が強引とも言える勧誘を受けていた。ヤッパリと言う気は拭えなかったが時すでに遅しと言うべきか、ここから我が学生生活が始まったと言っても決して過言ではない。

さて、当時と比較して今は華々しい成果を揚げているが、今思うに、当時から現在を予期する何かがあったように思う。それは個人戦では3年連続で優勝こそ逃したが優勝戦まで駒を進めた、後には全日本団体戦優勝に導いた素晴らしい人材を育てあげた、指導力(中身も重視)に尽きると思うし、しかも幾多の挫折を乗り越えて、40年近くも継続した賜物が現在を支えているものと思います。

最後になりましたが、40周年誠におめでとうございます。

フレーフレー 龍谷大学日本拳法部



10 期	昭和 51 年(1976)	西尾 元秀	法学	河南高
		林部 孝司	経済	
11 期	昭和 52 年(1977)	大野 修成	法学	市立高
		鷲元 明俊	文学	日立一高
		今村 光一	法学	
		長谷 是水	文学	

<メッセージ> 大野 修成 (11期)

龍大、日拳、バンザイ！歴史を繋いで頂いた先生、先輩、後輩、関係者の方々ありがとう！

古巣の活躍、感無量。現役時代は啓庸監督・真原先輩は怖かったです。

マッ、今思うと拳法が好きだったと解釈できますが、マゾの趣味があったかも？

監督曰く、社会に出たら役に立つぞ！お陰でやくざに会おうが監督の眼より、未だ怖い眼にあったことはありません。「確かに役に立ってまっせ。」

さておき逸話を。4回の時、監督や先輩と離れ伸び伸びと拳法したく、先輩の来られない合宿場所は、どこだろうか？海外は高いし他に？と考えて決めた場所が隠岐の島。思惑通り先輩は0人。主将の私に報いか、春にいためた肩の脱臼で4時間苦勞。隠岐は田舎で接骨院がなく病院で肩をいれたんですがレントゲンを見ながらはめるから痛いなの、結局、肩の靭帯が損傷してガタガタ！続ける自信がなく監督に弱音をはくと片腕なくとももう片腕あるやろ！と言われ卒業まで拳法を続け、今の自分がある次第であります。



12期 昭和53年(1978)

光壽 光夫 (旧八木)

経営

防府高

<メッセージ> 光壽 光夫 (12期) 「めでたくも 中ぐらいなり おらが春」

新年明けましておめでとう御座います。

小林一茶の句で書き出しました。

重ねて創部四十周年おめでとう御座います。

先輩諸兄のご苦勞に、ただただ頭が下がります。

また、こんな私を見捨てずに、お電話で原稿の催促をして下さった宍戸先輩の期待に応えようと、今グラスを片手に賢い頭で考えています。

なんと言っても私の四回生のときに、部の存続が危ぶまれる出来事がありました。

監督さんをはじめ、OBの方々に多大なご心配をおかけした事は忘れる事ができません。

しかしながら、現在の輝かしい発展を心より嬉しく思います。

それともう一つ、三回生のときだったと思いますが、監督さんに言われた一言が、非常に心に残っています。

厳しい練習が続いていたある日、「就職すれば、精神的にまいるときもあろう。しかし、肉体の限界を知れば、それがきつと、役に立つときがある。」と。成る程その通りです。

監督さん有り難う御座いました。

いつも不義理をしている私ですが、この紙面をお借りして、お礼申し上げます。

またいつの日か、お会いして、美味しいお酒を飲みたいと思っています。



13期	昭和54年(1979)	原 芳己	法学	三島高
		河原 善雄	文学	日吉丘高
		廣部 和朗	経営	鞍手高
14期	昭和55年(1980)	西川 忠夫	経営	桃学院高
		大野 良昭	法学	琴丘高
15期	昭和56年(1981)	佐藤 浩二	経営	大社高

<メッセージ> 佐藤 浩二 (15期)

私が龍谷大学経営学部に入學したのは、昭和52年の事になります。島根の田舎から出てきて何もわからないままの時に、入學式の際に日本拳法部に勧誘して下さったのはH先輩でした。

私は、「練習くらい見てみようか」と軽い気持ちで練習の見学に行ったのですが、Y主将に言葉巧みに勧誘されて入部してしまい、今日までの26年間という「アホな付き合い」が始まってしまいました。今でこそ、龍大拳法部は『常勝軍団』として他校から恐れられている地位を築いている訳ですが、私が在籍していた4年間というのは、一回戦突破が目標のような弱小チームだったんです。

1回生の夏合宿の際には不慮の事故が発生してしまい、対外試合中止というどん底の状態でも低迷していた時代の事を考えて見ると、昨年の“全日本学生選手権での団体優勝”という快挙は想像も出来ない事でした。

この快挙の過去には、そんな時代があったという事を忘れないで欲しいと思います。

学生時代の思い出の一つに、怖かったM先輩に雄琴温泉に連れていってもらった事がありました。先輩からは「お前が参段を取ったら、雄琴に連れていってやる」と檄を飛ばされて、素直だった私は一生懸命に練習して、いい思いをさせて頂きました。

26年もたつと、怖かった先輩方のイメージも変わりつつありますが、45歳になった私に「アホ」と呼んで下さるのは拳法部の先輩方だけです。

創部から40年の間には、「山あり谷あり」の道程があったと思いますが、今後もアホな付き合いを続けていきたいと考えております。

16期	昭和57年(1982)	池田 俊隆	経済	佐世保高
17期	昭和58年(1983)	山本 藤樹	経営	東豊中高
		河原 知広	文学	堀川高
		松本 智量	文学	神代高
		藪中 正紀	経営	天理高

<メッセージ> 松本 智量 (17期)

格闘技全盛の今でこそ、日本拳法二段、一回生から毎年全日本大会出場と言うと一目置いてもらえます。予選なしで出場できたなんてもちろん言いません。初心者の一回生部員を総動員してやっと1チームできたなんてことも言いません。

少人数で親密さはあるものの、一人欠けると試合に出られなくなるというのもプレッシャーですよ。なかなか勝てなかったこともあって一、二回生の時は練習より試合が苦痛でしたね。

当時、私は長身のわりにスリムで、どんなに食べても七〇キロを超えませんでした。それが今や何をしても八〇キロを割れない。この脂が現役時代にあったら、ああも簡単に投げられることはなかったろうに。厚くなったのは腹の脂だけではありません。今の栄光の基礎を築いたのは俺等だと言えるほど面の皮が厚くなったのも先輩諸兄後輩諸弟のおかげです。今、小四の長男がサンドバックを欲しいと言っています。ミットなら買っていいな。



18期	昭和59年(1984)	辻 義弘	経済	春日丘高
		山川 卓司	法学	南寝屋川高
		信楽 晃仁(旧藤井)	文学	崇徳高



<メッセージ> 山川 卓司 (18期)

この度、15年12月15日付で辞令が発令され大阪支店長に就任致しました。ようやく九州から正式に帰ってきましたが、給料は上がらず、責任だけが重く重くのしかかってくる毎日で……。危ない！危ない！サラリーマン生活の終止符か！？状態です。

大学時代の日本拳法の経験を活かし、頭の使わない仕事に就けば良かったとつくづく後悔しております。例えば……。茨木市役所とか……。

まあ皆様、良い仕事があれば紹介して下さい。

それでは今後も龍谷大学日本拳法部の発展を祈っております。

<メッセージ> 信楽 晃仁 (18期) 「龍大拳法部の御陰 (御恩)」

龍大拳法部の皆さんの近年のご活躍、OBとして大変誇りに思います。

選手にはもちろんのこと、その陰で監督、コーチをはじめ、OB会長、そしてお世話下さるOBの皆様のお陰を思い、皆様に感謝申し上げます。

私はちょうど20年前に龍大を卒業し、現在は呉のお寺に入寺していますが、現在も拳法が私の生き様を支えてくれています。大学時代強い選手ではなかったですが、拳法が好きで卒業後も茨木や京都の道場に通い、今も拳法を続けています。

現在はお寺といっしょに経営している幼稚園の2階に道場を構え、日本拳法を基本とした拳法を教え、子どもの部、大人の部共に優秀な選手も育てています。また広島には関東の日本拳法の卒業生が多く、いっしょに練習をしたり飲んだり、また他流派のコンタクト系の空手の先生との交流も広がり、様々な面で武道の輪が広がっています。

このようなこともすべて龍大時代日本拳法部に在籍したおかげであり、それが私の心念を支え、いろいろな活動の原動力となり、様々な場に生きている事を実感せずにはおれません。その拳法部が40周年を迎えますこと本当におめでとうございます。これが益々大きな流れになって、若者の心を育てながら50年100年と続いていきますことを念願致します。 合掌



19期 昭和60年(1985)

森本 每彦

文学

播磨高

<メッセージ> 森本 每彦 (19期)

創部40周年おめでとうございます。

深草の地をはなれはや20年の月日が過ぎようとしております。自分たちのころは部員も少なく一回生の時夏合宿を終わった時にはいつの間にか自分一人に、本当は、一番先にやめるつもりが優しい先輩方(?)にも助けられ何とか4年間続けることが出来ました。

いつの間にか白髪も目立ち練習で汗を流し、河原町を学生服姿で飲み歩いた日々を懐かしく想います。これからも龍大拳法部のOBとして誇りをもって生きて行きます。

今後ますますの龍谷大学日本拳法部の活躍と発展を祈念しております。 合掌

20期 昭和61年(1986)

鳥巢 達郎

経済

今宮高

吉川 悟

法学

摂津高

上川 正則

法学

八頭高

山田 昌良

法学

河南高

<メッセージ> 鳥巢 達郎 (20期) 「我が拳法部40周年を迎えて」

月日が流れるのは本当に早いもので、私が拳法部で汗を流していた頃から18年が経とうとしています。確か1回生の時、20周年の催しをした記憶があります。あの当時から、我が拳法部の積み重ねてきた歴史は、2倍になったわけです。

数年前、偶然仕事の関係で日本拳法経験者と知り合いました。彼は当時、大学を卒業して6~7年、30歳くらいの年齢だったと思います。明治学院大学出身で、現役時代、我が龍谷大学の連戦連勝の強さを目の当たりにしていたのでしょう。私が龍大拳法部OBと知り、非常に敬服され照れくさい思いをしました。

その後、拳法経験者とはなかなか出会えませんが、社会に出て19年、自分の力に限界を感じさせられるような大きな壁にぶち当たった時、いつも心の拠り所になっていたのは、4年間の厳しい練習に耐え抜いたという自負と、拳法部で培ったネバーギブアップの精神だったと思います。

現在遠方にいるのを理由に、まったくOBらしい事が出来ておらず、心苦しく思っております。また関西に戻ることが出来たなら、試合等にも顔を出させて頂きたいと思っております。定期的に送って頂いております「藤友クラブ」を楽しみに、また、我が龍大日本拳法部の活躍と今後益々の発展を祈念しております。

<メッセージ> 上川 正則 (20期)

昭和57年に鳥取の田舎から龍谷大学拳法部に入部。当時、某大学拳法部出身のOBがボクシングの世界チャンプに昇り詰めようとしている時でした。私自身は武道の経験もなかったのですが、勧誘された事及び興味があり入部する事となりました。

拳法部での生活には色々悩み苦しんだ事もあり、退部しようと考えた事も多々ありましたが、厳しくも心優しい先輩達に支えられ、どうにか4年間続けることができ、今こうして藤友クラブの一員で居られることに心から喜びを感じます。

現在同じ京都で消防署に勤務していますがあの時の思い出は、私の心の糧であります。(成長していないという事?)

あれから20年の歳月が流れましたが、あの時の先輩、後輩達が、今現在も当時と変わらぬ熱い心を持って参集できる場をつくって下さった事に感謝と敬意を表すとともに、拳法部及び藤友クラブの発展を念じます。



21期 昭和62年(1987)

北田	晃久	法学	高石高
永井	広昭	経営	鯖江高
加賀谷	孝典	法学	鷹巣高
香美	秀一	文学	桃学院高
田中	邦勝	経済	市東高
古木	知夫	文学	明法高
森	雅一	文学	上宮高

<メッセージ> 北田 晃久 (21期)

私は、今、京都拘置所で刑務官をしています。刑務官とは簡単に言ってしまうと牢番のことです。しかし、時代劇に出てくるような牢に閉じ込められている下手人をただ見ていればいいという訳ではありません。日々朝から夕方まで被収容者の面会、運動、入浴、出廷などをさせた後、夜は被収容者が自殺などの事故を起こさないように見張る24時間体制の仕事です。そして最近、よく報道されているのでご存知とは思いますが、刑務所などへの収容が増加していることが忙しい仕事に拍車を掛けています。

また、近況としてこういった勤務を日々しているところへ今年10月に他施設への訓練参加を命じられたため、機敏に動けるように体重を10キロ減量しました。そのため、大学時代の身軽さになったので、防具練習をしたらどれくらい今の現役連中に通用するかなどと考えている今日この頃です。OBの皆様方、昔に戻って共に防具をつけてみませんか？



<メッセージ> 古木 知夫 (21期) 「近況報告させていただきます」

創部40周年おめでとうございます。そしてこの歴史の中の1ページに名を残せることを誇りに思い、ペンを執りました。

さて、近況ということですが、昨年12月に次男が誕生して4人家族になりました。賑やかでいいのですが、家の中はすごい状態です。結婚時期がかなり遅く、歳がいったからの子供のせい、2人の子供がそれはもう可愛くて可愛くて。(親バカの意味が理解できました)

昨年11月、1期下の吉田君の結婚式の時、21期全員が集まり、久しぶりに顔を揃えました。かなり久しぶりなのですが、学生時代と同じ会話、ノリで非常に嬉しく、楽しい時間を過ごすことが出来ました。これも拳法部にて学生生活を送った賜物だと感謝しております。

最後に、この藤友クラブ・龍大日拳を支えてくれる、会長・監督・部長をはじめスタッフ陣に敬意を表したく存じます。これからも楽しい会合・会報を期待しております。 合掌



<メッセージ> 香美 秀一 (21期) 「啓席監督について」

現役時代の私には、ある種の“予知能力”がありました。練習前に“便意”をもよおすと、必ず「OB 四天王（監督・宍戸先輩・真原先輩・大門先輩のこと）」が来られるのです。毎週土曜日の午後は、7 トレを右に曲がった 2 階トイレの個室でしゃがみながら、その後、展開されるであろう「しんどい練習」をあれこれ想像しながら、ブルーな気分には浸っていたものです。

—我々二十一期が 4 回生であった年の初夏のある土曜日のこと。京都リーグの直前であったように思います。その日も例の便意を感じ、トイレでしゃがんでいました。

「監督か？真原先輩か？それとも、スタミナ稽古の宍戸先輩か？大門先輩やったらいいのになぁ・・・」ビクビクして待っていたものの、一向に OB 来襲の気配はありません。防具をはずし、整理体操をする頃には、「今日は平和な土曜日やったなぁ」という余裕の声もちらほら聞かれ、7 トレを安堵の空気が包んでいました。

しかしそれも束の間、ガラッと扉が開きました。背筋に冷たいものを感じながら後ろを振り向くと、不機嫌な顔をした監督が仁王立ちです。私の予知はやはり当たったのです。主将であった北田の「押忍！監督、今ちょうど練習が終わりました。」との報告をまったく無視するかのよう、悪魔の一喝、「今から基本をやるんやっ！」

—このたった一言で、我々は何と各三百本ずつの基本をこなす羽目になりました。突き面・突き胴・蹴り胴・前拳・膝蹴り・押さえ込み膝蹴り・この六種を左右構えを変えて、三千六百本、しかも途中でやり直しが入るので、延べ四千本強、時間にしてプラス一時間半、終了したのは五時前でした。全く理不尽極まりない話です。そして監督は満足げな顔をしてお帰りになるわけです。これが「嵐の基本三百本事件」と我々が呼んでいるものです。我々二十一期が集まって酒が入ると、必ずこの話になります。監督自身は覚えていらっしやらないような瑣末な事かもしれませんが・・・。とにかく、当時の監督には、有無を言わさぬ迫力とオーラがあり、我々現役は絶対逆らうことができませんでした。そういう事実が厳然としてあるわけです。ちなみに私は、結構長い期間、「けいとら」とは、名前ではなく、そのいかつさゆえについたあだ名（「軽トラ」）だと思い込んでいましたが、この誤解は私だけのものではないと思います。



このように現役時代は「理不尽で恐ろしいオッサン」としか思えなかった監督ですが、私自身がOBとなり、審判員や役員として、拳法会の仕事に携わって間近で感じるのは、監督の言動は、非常にバランス感覚に優れ、見識深いものであるということです。周囲の人間や現役選手に対する人物評も、的を得ていて感心させられることしばしばです。

現役の頃感じた「理不尽なイメージ」は、今や微塵も感じられません。今から思えば、創部以来、龍大拳法部を率い、今日の常勝軍団を築き上げた監督が、「ただ理不尽で恐ろしいだけのオッサン」であるはずがありません。監督のスケールの大きさを、現役の頃の我々が見抜けなかつただけなのかも知れないと思う今日この頃です。

ところで、我々の世代には到底信じられないことですが、今の現役の中には監督や真原先輩の目前で、何とご本人の物真似をやってのけるツワモノが存在します。優勝祝賀会等、めでたい席の無礼講とは言え、見ている我々の方がハラハラしてしまうほどです。しかし、それが現在の龍大の強さの一因であるかも知れないし、その物真似を見て笑っていらっしゃる監督や真原先輩を見ると、これが「団体の成熟した姿」というものかと、何とも言えぬ感慨があるのも事実です。

一何はともあれ、龍谷大学日本拳法部、創部四十周年おめでとうございます。

「武運長久」の一語を以って、この拙文の結びとしたいと思います。

監督、失礼しました。押忍！



22期	昭和63年(1988)	吉田 達哉	経営	西宮北高
		落合 俊生	法学	撰津高
23期	平成元年(1989)	西川 康泰	法学	平安高
		辻出 俊輔	経済	東大津高
		今村 誠志	経済	佐賀龍高
		緒方 清隆	文学	鳥栖高
		宇野 三慶	経営	下関商高
		片山 靖博	短期大学	

<メッセージ> 辻出 俊輔 (23期) 「私の拠り所」

今では名実ともに最強の龍大日本拳法部ですが、40年前から既に強い人達の集まりであったことは疑う余地がありません。追い込んで行くスタイルの練習内容と、それによって身に付くであろう強さの質を考えれば容易に想像できると思います。

その昔、試合での先輩のドツキっぷりを見て「同じチームでよかった」と思った後、冷静に考えると試合で対戦するよりも日々の練習で相手を務める時間の方が数十倍多い事に気付き、とてもセツナイ気持ちになったことを覚えています。

昨今、ビジネスの世界では成果主義による評価に重心を移そうという風潮が浸透しつつあります。ただ頑張るだけでなく、成果を目に見える形に表す事が必要です。

そういう時節に、きちっと試合で結果を出して実力を世間に知らしめることのできた選手の皆さんは、すばらしいと思います。また、その様にチームを正常進化に導かれた監督、コーチを始めとするOB諸兄のご尽力には、ただただ尊敬し感謝するのみです。

一方で、実社会においては、成果主義という言葉を意識して目先の結果や小手先のテクニックに捕らわれるあまり、結果として自分の器を小さくしてしまい、上司や会社に都合良く振り回されてしまう人達が増えてきているような気がします。

現実の社会では成果を見せる技も大切ですが、同時に周りに振り回されない芯の強さや、難局を耐え凌ぐタフさが必要なのではないかと思います。

私が龍大拳法部で得た強さは、己のギリギリの限界を体験した事から生まれる、ある種の余裕であると思います。私にとってのそれは1年目の夏合宿の最後にあった1回生同士での回り稽古でした。当時の新入部員は全員初心者で(しかもほとんどが強制勧誘!?) 技もクソも無くひたすら殴りあうだけでした。やれと言われて、訳も分からず、ただ闇雲に…。

今、私の手元には2枚の写真が残っています。夏合宿での回り稽古が終わった直後に撮影した集合写真です。1枚目は、目も虚ろで完全にイッてしまっている自分と仲間達が写っています。2枚目は、1枚目とほぼ同じ構図なのですが前列中央に写っている自分は小さくピースサインを作っています。どういふつもりだったのかは覚えていませんが、技も力も何も無いド素人の1年生が何とか最後に見せた意地とか強がりとか、若くて負けず嫌いな自分が写っているような気がして、社会に出てからは事ある毎に見返しては心の拠り所としています。「俺にはこれ位の意地や根性は有るはずやぞ」と。

現役の皆さんには、どうか4年の内に1度位は自分の限界を越えるような(理不尽で、強烈な!?) 体験をされる事をお勧めします。きっと一生モンの財産になります。

1回で十分ですよ。何回もやったら、アホになるからね♡





24期 平成2年(1990)

松原 茂		大市立高
曾田 宏一		
北村 寿朗	文学	樫原高
西寺 憲昭(旧北原)	短期大学	直角高

25期 平成3年(1991)

山口 綱己	経営	桃学院高
大倉 広	経済	大淀高
向井 宏量	文学	伊勢高
高槻 陽一郎	法学	筑紫丘高
八木 雅之	経営	生駒高
本田 和紀	文学	関倉高
稲垣 雄一	経済	桑名北高



<メッセージ> 山口 綱己 (25期)

平成3年に卒業してすぐに東京。大阪に帰って来てからもう10年近く、わけも分からず不動産業の中で鍛えられているうちにあつと思ったら家族も6人(男の子4人)になっていました。

藤友クラブの会員名簿を見てもいつの間にか多くの後輩ができていて、またすばらしい成績を残していつてくれるのを誇りに感じています。

ウチの長男(小4)、次男(小2)も、たまたま家のすぐ近所に極真空手の道場があつたので数ヶ月前から行かしたところ、結構楽しいみたいで、今度初めての昇段試合に出るようです。

いつ迄続くか分かりませんがその空手着を見ると、昔を思い出して思わず笑みがこぼれます。

以上35才山口の近況報告です。

<メッセージ> 八木 雅之 (25期)

40周年おめでとうございます。25期で主務を務めた八木です。

現在、東京の広告デザイン会社に勤め、早くても夜10時、平均的には午前様帰宅という多忙な毎日を過ごしております。

こっちで所帯を持って以来、あまり関西に帰ることもないのですが、帰省した折には、ぜひ練習にも顔を出したいと思います(まだ死にたくないのも、防具は絶対につけません)。

東京の大会には、今後もできる限り応援に行きますので、先輩諸兄の皆様、後輩の皆さん、よろしくお願ひいたします。



26期 平成4年(1992)

沖本	雅春	経済	崇徳高
甲斐	泰成	経済	桃学院高
濱崎	真司	法学	関倉高

27期 平成5年(1993)

小笠原 正浩	経営	千里高
門嶋 宏至	法学	市岡高
三木 毅	経済	刀根山高
菅 則子	短期大学	日吉丘高
山村 恭弘	法学	春日丘高
三宅 弘毅	短期大学	関大一高
我谷 文野	短期大学	西宇治高

28期 平成6年(1994)

沖田 慎治	経済	東海仰高
津田 大輔	法学	武庫之荘高
善入 正浩	経済	大阪高
小池 善徳	法学	葦合高
高田 正樹	理工	松山中央高
小倉 龍	法学	朱雀高
金原 秀勲	文学	池島高
鈴木 雅樹	文学	清風高
蒲生 真理	短期大学	天王寺高
安藤 親	短期大学	旭川西高

<メッセージ> 善入 正浩 (28期)

第28期一同、全員元気で幸せな生活を過ごしています？
結婚している者していない者それぞれですが・・・。

沖田・・・妻、子供1人 拳法大好きです。

善入・・・妻、子供3人 バタバタ毎日です。

津田・・・未婚 毎日ダラダラ、キビキビパチンコ。

鈴木・・・未婚？ いつも冷静、服は黒が好きでした。

小倉・・・未婚？ 毎日酒酒酒・・・・・・

高田・・・未婚？ 田舎で元気にしています。

小池・・・未婚？ 幸せなバイト生活？

金原・・・未婚？ そこそこがんばってます

今思えば、どうしようもないメンバー
でしたが、楽しくいい時間を共にすご
せたと思います。

いつの日か、全員集合できることを願
う！！





29期 平成8年(1996)

荒木 竜也	経済	大阪高
千葉 裕三	経営	大阪高
長谷川 輝晃	経済	松江北高
堀辺 滋	経営	高石高
西尾 元宏	経済	清風高
坂口 裕哉	文学	星林高
中谷 斉人朗	文学	

<メッセージ> 西尾 元宏 (29期)

最近、不景気の中、仕事の方は、人員削減のあおりをかなりうけています。最近では、いつ自分自身の身にふりかかるかわからない状況です。現在、世の中渡りあえているのは、日本拳法をやっていた頃の打たれ強さ、がまん強さがあるからです。

しかし、最近ではそれだけではやっていけないと考えるようになってきたのも、事実として考えるようになりました。仕事の上で、新規のお客様を受けおうのは大変です。

なぜなら、人との交際によって培った経験や力が必要となるからです。拳法の練習の時でさえ無口な私にはそれがあまり培ってはいなかった様に思えます。

厳しい世の中、みなさんも社会状況をふまえた上で、交際範囲を広げていくのが良い得策だと思います。よりよい交際をふまえた上で学力向上を願っています。



30期 平成9年(1997)

佐藤 隆之	経済	大阪高
増田 敦己	経営	大淀高
玉崎 勝規	経済	北野高
渡辺 昌和	法学	市岡高
植田 高章	経済	大商大附高
沖田 麻美子(旧正木)	経営	坂出商高
新井 稔英	経営	上宮高
藤原 詩	経営	八幡浜高

<メッセージ> 増田 敦己 (30期)

創部四十周年おめでとうございます。

私が学生時代に三十周年を迎えた事をかすかに思い出し、あれから早くも十年の月日が経つのですね。現在私は、株式会社 IBC に勤務しており、毎日やり甲斐のある職場で楽しく頑張っております。

拳法では、香美先生のもとで濫觴会にて週二回の練習に励んでいます。最近の試合の成績では、全日本総合選手権第四位、全日本社会人大会団体戦優勝(藤友クラブ)、ジャパンオープン優勝(三桜会)という結果を収める事が出来ました。

日本拳法と出会い十三年、辛い練習を乗り越え(学生時代はじつによくどつかれました。誰にとは言えませんが・・・)楽しさや嬉しさを味わう事も出来ました。これも拳法を通し、出会って来た全ての人に感謝しています。

これからも、日本拳法を楽しめるよう日々精進したいと思います。 押忍

<メッセージ> 植田 高章 (30期)

大学を卒業してはや6年が経ちます。ふと振り返ってみると、毎日をほとんど仕事に費やしてしまいました。仕事柄(スーパーに勤務)、サービス残業が多く、朝は早く、夜は夜中遅くまで仕事に明け暮れて、なかなかゆとりが持てないでいます。

そんな中で何ヶ月かに一回送られてくる OB 会の会誌を読むことが数少ない楽しみの一つになりました。いつも紙面一杯を現役生達の活躍で埋められた会誌を眺めながら学生時代を思い出します。毎日辛くて厳しい練習ばかりやって嫌になり、日本拳法部に入ったことを何度も後悔しました。

しかし今 OB 会誌を眺めていると、やっぱりあの頃は楽しかったです。部活動が中心だった学生時代が今迄で一番楽しかったです。

もう大学時代には戻れませんが、OB 会誌を読んでいると一瞬だけでも仕事を忘れ、学生時代に戻ることができます。

やっぱり日本拳法部に入っ
て良かったです。



31期 平成10年(1998)

朝倉 良哉	経済	豊橋西高
井上 隆	法学	大淀高
山下 潤	文学	伊都高
上田 貴史	法学	上宮太子高
海端 次郎	法学	海南高

<メッセージ> 朝倉 良哉 (31期)

早いもので卒業して6年が経ってしまいました。日常生活の忙しさで、なかなか学生時代のことを思い出すことも少なくなってきてしまいました。ただ、私達31代同回生は1年に1度は皆で集まって昔のように“どんちゃん騒ぎ”をしています。そういった意味では、他の諸先輩方や後輩達に比べて私達の団結力は抜きん出ているのではないのでしょうか。いや、ある意味いまだに学生気分が抜けていないのかもしれない。

そして私はいまだに学生をしています。卒業後4年間社会人を経験、退職後は1年間カナダへworking holiday。そして、03年の9月からアメリカの大学で学生生活を送っています。たまに自分でも「何をしてんねん！」とふと思うときがあるのですが、来たからには気合を入れてやってやろうと日々精進しています。ただ、如何せん元々の勉強能力がないので日々頭がショートしているのも確かです。

武道に関しては、なかなかこちらで携わることが出来ないのが実情ですが、03年の5月にカナダで行われたテコンドー選手権(British Columbia州)に出場し見事2位を獲得しました。(段外の部)現在カリフォルニア州に滞在中です。何かお役に立てることがあればご連絡下さい。



<メッセージ> 山下 潤 (31期)

40周年おめでとうございます。仕事の都合で、応援に行くことが出来ず残念です。

遠くから後輩の活躍を拝見できる会報をいつも楽しみにしております。

同期の朝倉、井上、上田三号、次郎とは今でも固い絆で結ばれていて、今だに現役時代のネタを肴に呑みに行ったりします。

会報を見るたびに熱い気持ちが蘇ります。

これからも後輩の活躍を期待しております。 押忍

<メッセージ>海端 次郎 (31期)

学生時代をふりかえてみると思い出に残っているのは、日本拳法に関連したことがほとんどです。
(それが良い事か悪い事が分かりませんが・・・)

学生時代は拳法の練習はすごくつらく思っていました、今になってみると、最後まで続けていて、本当によかったと思います。学生の時と比べると変わったのは贅肉が増え、顔がさらに老けたというくらいで、中身の上では特に成長はしていませんが、今の自分があるのは、やはり日本拳法を続けていたおかげだと思っています。

いつも送っていただく会報により、日本拳法部の活躍を知るたび、自分もうれしく思っています。これからも龍谷大学日本拳法部がさらに発展していくことを期待しています。

32期	平成11年(1999)	山川 剛史	経済	大阪高
		村田 百基	経営	四天羽曳野高
		甲斐 千喜	文学	柏原高
		田中 嘉人	経営	和泉高
		上西 麻智子	短期大学	大淀高

<メッセージ> 山川 剛史 (32期)

卒業し、母校に就職してから5年の月日が経ちます。結婚して、息子も2歳になりました。そして今月、2人目の子供が生まれる予定です。

現在はコーチとして、また選手(?)として、日本拳法部に関わらせて頂いております。

監督、筆頭コーチ、OB会長が時間を作って練習に来てくださること、試合の度に、遠くから先輩方が応援に駆けつけてくださることは非常に有難いことです。

思い返せば、拳法部での4年間は本当に充実していました。日々の練習で強くなっていく心身だけでなく、同期、先輩、後輩をはじめ、拳法を通じての様々な方との出会いは、私の人生に大きな影響を与えてくれました。

ここでの経験は何事にも変え難い「宝物」であることは間違いありません。現役の後輩達にもいい経験をしてもらいたいものです。

創部40周年を迎え、今後ますますOB同士、またOBと現役の学生が、「龍谷大学日本拳法部」を合言葉に深く交流できることを願っています。

<メッセージ> 田中 嘉人 (32期)

和歌山のデパートに就職して早5年。昨年5月に、婦人服から地下食品売場に担当をかわり豊食の毎日を過ごしています。周囲からおなかに肉が巻きついているというお話も現役の時には考えられない事です。

仕事はこの不況の中、奇跡的に順調で運が上向きなのかな？と錯覚を起こしています。そんな時、同期の山川から40周年事業のお手伝いに誘われ困惑と粗品を何にするのか悩む毎を送らされました。諸先輩方から現役の後輩まで拳法部の繋がりを感じてもらえる物を贈りたいと思いました。

デザインは、デザイナーやたくさんの方に協力してもらい創部40周年の軌跡と成長・発展をイメージしました。特に正面の校章の下の拳ロゴは、全冠タイトルを2回も取った事を記念して2コ入れました。(ワールドカップサッカーのドイツチームをモデルに)

そんなこんなで出来あがったTシャツを全員が喜んで着て頂いたらお手伝いした甲斐があったと思います。



33期 平成12年(2000)

中根 央貴	経営	津東高
青山 元洋	文学	柏原高
荒木 拓也	経済	大阪高
村井 勇佑	理工	兔道高
藪井 里絵	短期大学	下津女高
沢田 美由紀	経済	市岡高
坂本 葵	文学	東豊中高
木村 順子	文学	京文京高

<メッセージ> 中根 央貴 (33期)

思い出として、やっぱりお酒ですかね。三重県から来た田舎者としては酒とタバコは二十歳からと育てられてきた為、大学の体育会系の飲み会はハンパじゃありませんでした。新入生歓迎コンパから四回生の追い出しコンパまで、事ある毎に飲み会があったように思えます。

特に一回生の京都リーグでは、伝統ある優勝カップに並々と日本酒を注いで皆で回し呑みをした思い出。その後は強制的に帰され朝起きたら学生服の胸ポケットにスキヤキが入ってたりとか…。このように鍛えられたおかげで、今では酒豪呼ばわり v(^^)v
いま社会人になって、こんなお酒の話が出来ませんが、毎年ある龍谷大学日本拳法部の行事を出来る限り参加して、先輩や後輩達と飲む事を楽しみにしています。

今後とも宜しくお願いします。

<メッセージ> 木村順子 (33期)

大学に入るまで、いや勧誘を受けクラブ見学に行くまで、私は「日本拳法」というスポーツなど見たことも聞いたこともありませんでした。

正直なところ格闘技にはまったく興味がなかったので、大学の4年間をこのクラブの一員として過ごし、今でも諸先輩、同期、そして後輩たちと関わってられるということを非常に不思議に思い、そしてそれ以上に幸せなことだと感じています。

学生時代は本当に楽しい日々でした。思い出すのは講義の内容ではなく、日々の練習、合宿、それから試合・・・みんなとたくさん話し、笑い、泣いた記憶ばかりです。そしてこれらの経験が今の私を支えてくれているのです。

今回で私たちの拳法部も40周年という記念すべき年を迎えましたが、今後ますますの発展を心より願っています。

<メッセージ> 沢田美由紀 (33期) 「感謝のことば」

40周年おめでとうございます。

大学の4年間とは、人生において最も自由な時間のひとつだと思います。私の場合、その貴重な時間の大半を拳法部に費やしました。

マネージャーとして、十分に拳法部の役に立てたとは思いませんが、私にとって大学生活は毎日がとても充実しており、たくさんの人に出会い、学び、成長できたように思えます。

これからも、この拳法部が尽きることはないよう、OB・現役ともに拳法部を盛り上げ、ますます発展していければ幸いです。

私が最高の時を過ごす事が出来たのは、諸先輩方、後輩達、同回生の仲間のお陰です。本当にありがとうございました。



岸本 健志	経済	大体大浪商高
大西 康夫	文学	大淀高
矢野 真睦	経営	大淀高
藤田 仁志	文学	大産大附
北野 琢也	経済	桜塚高
澤 英明	経済	大阪高
藤井本喜世子	短期大学	大淀高
上村 純子	短期大学	三重高
村上 由希江	短期大学	一関第一高
松平 真子	短期大学	大本高
岡本 史生	大学院	滋賀大





35期 平成14年(2002)

内田 広志

文学

大分高田高

山下 和彦

経営

柏原高

真田 直彦

経済

大体大浪商高

高木 健治

経営

西城陽高

<メッセージ> 内田 広志 (35期)

龍大拳法部創部40周年、誠におめでとうございます。自分が卒業してから2年が経ち、現在は大分県(地元)にて、福祉の仕事に就き、自然に囲まれ暮らしています。思い起こせば1998年3月、九州の田舎から京都に渡り、龍大拳法部の門をくぐり、驚愕の日々が続きました。毎日の猛練習・・・。「お前みたいな奴、いらんねん」と啓帛監督・・・。「阿呆! コラッ! ボケェ! カスッ!」と真原筆頭コーチ・・・。「お前はそんで終いなんか・・・」と宍戸OB会長・・・。正直その言葉が悔しく、「見返してやる」「強くなりたい」と毎日啼きました。しかし今ではその日々が懐かしく、今も大切なモノとして自分の中にあります。龍大拳法部の一員であった事を、この創部40周年の歴史に名前を残せることを、自分は誇りたく思います。今後も更なる御活躍をお祈り申し上げます。 押忍

<メッセージ> 高木 健治 (35期)

私の龍大日本拳法部での4年間は、まさしく熱く燃えたぎる青春の魂そのものでありました。私は大学入学当初から運動部に所属したいと思い、どうせやるなら厳しい環境でと、迷わず日本拳法部を選びました。全国大会で個人・団体ともに優勝を経験してただけあって、練習はハードそのものでした。実際、大学生の間は、体中のあちこちが痛くて、毎日萎えそうな気持ちを奮い立たせて練習に行ったものです。しかし、そのような辛い思いをしていたからこそ、日々、拳と拳で会話をしていたからこそ、私にとっての大学生活はかけがえの無いものになりました。

私は推薦組みではない、いわゆる一般入部生でした。私と同じように勉強で大学に入り、自ら進んで日本拳法部に入部し毎日ド突かれているモノ好きな現役の部員の皆さん！あなた達の選択は正解ですよ！今は本当に体も心も痛めつけられる日々だと思いますが、毎日本当に一生懸命に練習に励んでください。卒業後、いや12月の全日本団体戦のあと、あなたたちの汗と涙で育った花がきっと咲いています。



花坂 栄治	文学	大淀高
森塚 祐介	文学	初芝高
磯村 英樹	法学	布施高
小原 綾	経済	光華高
水嶋 康二	経済	落合高
川上 聡	法学	牧野高
尾田 寛明	経営	大淀高
隠塚 祐介	経済	智辨学園高

<メッセージ> 姫野 泰子 (新体操部監督)

創部40周年おめでとうございます。心より御祝い申し上げます。

私は龍谷大学を卒業後、現在は(学生時代に所属しておりました)新体操部の監督を務めております。また鍼灸師とトレーナーの資格を持っておりますので、ご縁あって、3年前より、貴部の皆様のコンディション管理をさせていただいております。試合にも同行し、日本一に輝く日本拳法部に関わることが出来、幸せに思います。監督様や指導陣の皆様の教えを間近で拝見し、私も新体操を指導する上で、勉強させて頂き感謝しております。

20年前、私が学生だった頃、貴部は近寄ることのできない恐い存在でした。新体操はメインフロアで活動しているのに、何故か、7トレの緊張した練習の雰囲気は伝わってくるので不思議でした。20年経った今、治療家と選手という立場になり感じるのは、皆、素直で心が純粹で優しい紳士達ばかりで、(しかも髪の毛より細い鍼を痛がり怖がる男の子ばかりで)どこからあの激しい戦いのパワーが出てくるのかが謎です。

今後も、少しでも皆様のお役に立てればと思います。

益々のご繁栄をお祈り申し上げます。





平成15年度 現役部員たち



夏合宿（長野県白馬村）



全日本学生拳法選手権大会 優勝



優勝後の宴会

OBたちの活躍



平成6年社会人大会



平成7年社会人大会



平成9年総合選手権大会
優勝：佐藤（30期）
準優勝：増田（30期）



平成10年総合選手権大会
優勝：佐藤（30期）
準優勝：山川（32期）



平成11年総合選手権大会
優勝：佐藤（30期）



平成11年社会人大会
優勝



平成 12 年総合選手権大会
優勝：佐藤 (30 期)
3 位：増田 (30 期)
4 位：岸本 (34 期)

平成 14 年総合選手権大会
優勝：佐藤 (30 期)



平成 13 年社会人大
会



平成 15 年社会人大
優勝



平成 14 年社会人大
優勝



日本拳法解説

生物学では、動物の運動は生存要求の①食物を求めると②自衛とにもとづくといわれている。人間の場合は、もちろん、これらのこと以外にも、高尚な精神活動としての運動もするものである。だがすべての運動の基底に、他の動物と同様な①食物を求めると(生活のための職業)と②自衛とが厳存していることは否めないのである。

したがって、われわれは自衛能力を先天的な素質としてもっている。身を護るために敵と戦うことは、教えられなくても、万人が心得ている。この先天的な素質を後天的に学習開発したものが武術なのである。そして、そのうちの、最も始元的な素手の戦いの素質を学習開発したものが、すなわち拳技格闘の武術である。したがって、この種類の武術は、人類の至るところ、古今東西を問わずして存在するのである。

しかし、拳技は至って危険なために、自由に撃合って稽古や試合をすることができず、形(かた)の稽古や演武をするのみであった。西欧のボクシングは、グローブの創案によって撃合いをするといえども、これは制限された拳技のみになっている。そこで、拳技も蹴技もつかい、また組打格闘の技も用いて、天性の素質を充分に開発すべく、防具を創案して自由に撃合い、稽古、試合をする法を創てたのであった。これが日本拳法なのである。

日本拳法の練成効果は絶大である。著しく強くなる。この強くなることによって、人間は心理的に無意識が改造される。劣等感が除去され、心にゆとりができる。この心のゆとりこそ、人間をその本来に還元し、倫理の感覚を湧かしめる。ここに日本拳法に倫理の心が宿り、武の道となる。

この解説、至って簡略であるが、これが日本拳法の概要である。



創部40周年を迎えて（編集後記）

龍谷大学学友会体育局日本拳法部
創部40周年記念事業 実行委員会
委員長 山 川 剛 史



昭和39年の創部からの40年間には諸先輩方の様々なご苦勞があったと思います。今まで拳法部を育て、成果を築き上げてこられました、部長先生、監督、筆頭コーチ、OB会長をはじめとする先輩諸兄、現役部員の諸君に心から敬意を表したいと思います。

私は平成7年に龍谷大学に入学し、龍大拳法部が「常勝」と言われつつある華やかな時代を過させていただきました。そのような若輩者が今回の記念事業の実行委員長をさせて頂くことになり、誠に恐縮しています。

今回の記念事業は、先輩方のアドバイスを頂戴しながら、何とか形になりました。特に全般にわたり宍戸OB会長、この記念誌の作成・発行については辻出先輩、木村順子OG、記念品については同期の田中嘉人君に大変お世話になりました。また、委員の諸先輩方には原稿提出の督促、出席の案内等にご尽力いただきました。委員会開催の時間が調整できず、私の独断・独走を許して頂きましたことにお詫びと感謝を申し上げます。

さらに、創部40周年の記念に、全日本学生拳法選手権大会の2連覇を飾ってくれた現役部員の諸君には深く感謝を申し上げたい。主将の山口大輔君には、幹部になった当初から「今年は創部40周年なので」ということを私がいつも吹き込んでいたので大変なプレッシャーだったと思います。本当によく頑張ってくれたと思います。

記念誌は、創部30周年時のものを参考に作成いたしました。当時の委員の先輩方のご苦勞が身にしみて分かりました。

また、多くの先輩諸兄から寄せられたメッセージには感動いたしました。それぞれが、それぞれの想いで綴る学生時代の思い出や近況。学生時代の辛かった稽古、楽しかった経験などが現在の生活の基礎となり、仕事をしていく上での糧となり、活かされていることがよく分かります。このようなメッセージを読ませていただくと本当に元気が湧いてきます。現役部員の諸君も、先輩方の想いを知り、自分達の部活動、学生生活に役立てていただければと思います。

本音を言えば、もっと多くの先輩方にメッセージをいただければと思いましたが、私の準備不足も反省しつつ、また、クラブへの思い入れもそれぞれ違いますので仕方がないのかなとも思います。

創部40周年を機に、仕事や年代の枠を超えて、「龍谷大学」、「日本拳法」、「和の旗」を合言葉に今まで以上に多くのOB・OG、関係者が集い交流し、現役部員をバックアップすることができれば最高であります。

この強い結束そこが、我ら龍谷大学日本拳法部の本当の意味での強さの源であると確信しております。

今後は、50周年、100周年を目標に、よき伝統を築き上げていけますよう、OB諸先輩、関係各位のご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

龍谷大学日本拳法部創部40周年記念事業実行委員会名簿

〔顧問〕 御 前 進 (拳法部部长)
岡 部 修 (拳法部副部长)
啓 庸 義 和 (拳法部監督)

〔参 与〕 宍 戸 和 之 (藤友クラブ会長)
田 中 孝 嗣 (藤友クラブ副会長)
河 原 善 雄 (藤友クラブ副会長)
辻 義 弘 (藤友クラブ副会長)
眞 原 正 二 (拳法部筆頭コーチ)

〔委員長〕 山 川 剛 史 (32期)

〔副委員長〕 辻 出 俊 輔 (23期)
山 口 綱 己 (25期)
中 根 央 貴 (33期)
木 村 順 子 (33期)

〔委 員〕 北 田 晃 久 (21期)
千 葉 裕 三 (29期)
蒲 生 真 理 (29期)
渡 辺 昌 和 (30期)
井 上 隆 (31期)
村 田 百 基 (32期)
田 中 嘉 人 (32期)
沢 田 美由紀 (33期)
岸 本 健 志 (34期)
高 木 健 治 (35期)
小 原 綾 (36期)
山 口 大 輔 (拳法部主将)

藤友クラブ 役員名簿

顧問 御前 進
顧問 岡部 修

1 藤友クラブ

[本部]

会長 宍戸 和之 (4期)
副会長 田中 孝嗣 (3期)
河原 善雄 (12期)
辻 義弘 (18期)
幹事長 堤 健蔵 (6期)
会計 上川 正則 (20期)
監査 吉田 忠司 (2期)

[地区幹事長]

北海道地区 なし
東北地区 落合 俊生 (22期)
関東地区 佐藤 公信 (7期)
中部地区 朝倉 良哉 (31期)
関西地区 小島 晴夫 (3期) ・佐藤 浩二 (15期)
(1) 大阪地区 藤原 行雄 (9期) ・玉崎 勝規 (30期)
(2) 京滋地区 上川 正則 (20期) ・小倉 龍 (28期)
(3) 兵庫地区 森本 每彦 (19期) ・津田 大輔 (28期)
中国地区 信楽 晃仁 (18期)
四国地区 行村 房夫 (6期)
九州地区 北村 直登 (4期) ・上原 敏弘 (8期)

2 拳法部

部長 御前 進
副部長 岡部 修
監督 啓帙 義和 (2期)
筆頭コーチ 眞原 正二 (5期)
コーチ 北田 晃久 (21期) ・沖田 真治 (28期)
荒木 竜也 (29期) ・佐藤 隆之 (30期)
増田 敦己 (30期) ・山川 剛史 (32期)

龍谷大学日本拳法部OB会・藤友クラブ会則

(目的)

第1条 この会は、会員相互の親睦と福利厚生を増進をはかるとともに、龍谷大学学友会体育局日本拳法部（以下「拳法部」という。）との交流及び育成に努め、龍谷大学人としての人間形成向上をはかることを目的とする。

(名称及び事務所)

第2条 この会は、龍谷大学日本拳法部 OB 会・藤友クラブ（以下「OB会」という。）と称し、仮事務所を拳法部におく。

(事業)

第3条 この会は、第1条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 会員研修会及び拳法部との交流事業
- (2) 会員の慶弔
- (3) 龍谷大学及び校友会等が主催する事業への参加
- (4) 日本拳法会が主催する事業への参加
- (5) その他第1条の目的を達成すると認めた事業

(会員)

第4条 この会の会員は、次のとおりとする。

- (1) 拳法部に所属していた者で、OB会が認めた者。
- 2 この会に賛助会員をおくことができる。
 - (1) 龍谷大学教職員で、日本拳法部に理解のある者でOB会が認めた者。
 - (2) 龍谷大学の卒業生及び在学していたもので、日本拳法に理解のある者でOB会が認めた者。
 - (3) 日本拳法会に所属している役員の者で、OB会が認めた者。
 - (4) その他OB会が必要と認めた者。

(会員資格の取得・喪失)

第5条 会員の資格は、前条に規定する者となった日をもって取得するものとする。又、OB会の名誉を毀損した者、会員としてふさわしくない行為のあった者及びOB会費を3年間無断で滞納した者については、資格を一時停止又は喪失させることができる。

(会員の権利・義務)

第6条 会員は、OB会が行う事業に参加する権利を有し、OB会会則、総会等で決定した運営事項に従う義務を負う。

(役員)

第7条 この会に次の役員をおく。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 3名
- (3) 幹事長 若干名
- (4) 監査 1名
- (5) 会計 1名
- 2 拳法部監督、筆頭コーチ、コーチ
- 3 顧問、参与の職をおくことができる。

(役員の職務)

第8条 役員の職務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、OB会を代表し、会務を総務する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。
- (3) 幹事長は、それぞれの地区における総括者であり、OB会の運営、企画等に携わりとともに、地区の会員の連絡をはかる。
- (4) 監査は、会務及び会計を監査する。
- (5) 会計は、会長の命により会計事務を行う。

- 2 監督は奉法部の指導及び助言を行うものとし、コーチは監督の補佐を行う。
- 3 顧問、参与はこの会の指導及び助言を行うものとする。

(役員を選任及び任期)

第9条 役員を選出は、総会において立候補又は会員の推薦により、総会出席者（委任状を含む）の過半数をもって決定する。

- 2 役員任期は、選任された日から3年とする。ただし、再任を妨げない。

また、後任委員の任期は前任委員の残任期間とする。

- 3 役員は、会員の3分の2以上の解職請求があれば失職するものとする。

(役員会及び権限)

第10条 役員会は、第8条の役員のうち、会長が指定した役員構成をもっておこなうものとし、会長がこれを招集する。又、役員から招集の要請がある場合、会長は役員会を招集しなければならない。ただし、会長が必要ないと認めるときは、この限りではない。

- 2 役員会は、次の事項に関する協議及び決定を行う。

- (1) 会員の資格取得・喪失及び会員資格の一時停止に関する事。
- (2) 予算及び事業計画に関する事。
- (3) 決算及び事業報告に関する事。
- (4) 会長の諮問に関する調査・研究事項。
- (5) その他役員会で協議すべき諸事項。

(総会)

第11条 総会は、年1回会長が招集し開催するものとする。ただし、招集できない事由がある場合においては、会員に議案書等を送付し承認を得るものとする。

- 2 総会は、出席会員の過半数により議決し、可否同数の時は、議長が決する。

- 3 議長は会長が行う。会長が不在の場合は、副会長が行う。

(総会議決事項)

第12条 総会において次のことを議決する。

- (1) 会則制定、改廃に関する事項。
- (2) 予算、決算及び事業計画、事業報告に関する事項。
- (3) OB会役員を選任に関する事項。
- (4) 会員の資格取得・喪失に関する事項。
- (5) その他重要な事項に関する事。

(会計年度)

第13条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(経費)

第14条 この会の経費は、次の財源をもってあてる。

- (1) 会費
- (2) 寄附金
- (3) その他の収入

(会費)

第15条 会費は次のとおりとする。

- (1) 会員・賛助会員は年額1万円とする。ただし、女子会員については5千円とする。
- (2) 会費は会員となった年度から納入するものとする。ただし、会員が満60歳になった次の年度からは5千円とし、女子会員についても3千円とする。又、現役OBの場合については現役OBとし、卒業した年度から納入するものとする。
- (3) 会費の減免及び猶予については会長がこれを決定する。
- (4) その他会費に関する疑義については、役員会で協議する。

付 則

この会則は、平成5年6月13日から施行する。

この会則は、平成8年4月1日から施行する。

龍谷大学日本拳法部OB会・藤友クラブ慶弔規則

(趣 旨)

第1条 会員相互の福利厚生の一環として、慶弔金等を支給するため必要な事項を定める。

(給付項目)

第2条 給付の対象は次のとおりとする。

- | | | |
|---|---------|----------------------|
| (1) 会員の結婚 | (本人-初婚) | 祝金1万円・祝電 |
| | (本人-再婚) | 祝金5千円・祝電 |
| (2) 会員の死亡 | | 香料1万円・檜又は供花—5千円相当・弔電 |
| 会員の実父母 | | 香料5千円・檜又は御供—5千円相当 |
| 会員の配偶者 | | 香料5千円・弔電 |
| 会員の子 | | 香料5千円・弔電 |
| (3) 会員以外でOB会が必要と認めたものに対して、第2条に準じて行うものとする。 | | |
| (4) その他事情(役員等の場合)が生じた場合は、会長が決定する。 | | |

(支給手続き)

第3条 前条の支給は、会員の申し出により行うものとし、事実のあった日から1年を経過したものについては支給しないものとする。

2 慶弔規程に該当する場合、連絡を受けたもの等が、役員の方へ必要事項を報告するものとする。

(規則適用の除外)

第4条 この慶弔規則は、会員資格の喪失者及び一時停止者については行わないものとする。

附 則

この規則は平成8年4月1日より施行する

龍谷大学 逍遙の歌

可 信 和 義 作詞
中 村 良 夫 作曲

お～^{あお み ひがしやま めいげつ こうこう て}仰ぎ見れば東山に 名月は皓々と照りはえて

^{きよみず あす いのち たの}清水のせせらぎに明日の命を頼まん

お～^{ほづがわ なが あお ひがしやまれんざんにしやまれんぼう}保津川の流にゆられゆられて 仰げば東山連山西山連峰

お～^{みなみ きょうとぼんち ちしお がくと ふかくさ もり}南にのびる京都盆地 若き血潮と学徒が集う深草の森

お～^{こうべ おのれ ちい し こうべ あお しょうほう ぼんこ}頭をたれては己の小さきを知り 頭をあげては仰ぎみる正法萬古

さあさ^{うた かな くる かな われら りゅうこくだいがくしょうよう うた}あさ唄わん哉 狂わん哉 我等 龍谷大学逍遙の歌

1. ^{はなさ そ いつい ゆめ ゆう かもがわ}花咲き染めて一睡の 夢は夕べの鴨川か

^{いっしやせんり こうが の なが いほう たいかい}一写千里の恆河に乗せて 流せ異邦の大海へ

^{われらりゅうこく はな そだ}我等龍谷の花ぞ育たん

2. ^{い かんなん の こ じょうみょう ななじゅうねん}行け艱難を乗り越えて 常命わずか七十年

^{はる おおえ みね ゆうゆうゆう ひ のぼ}遙かにそびゆる大江の峰に 悠々悠と 日は昇る

^{われらりゅうこく はな の}我等龍谷の花ぞ伸びなん

3. ^{と いにしえ はな みやこ きょうらく}さてこそ説かん 古の花の都は京洛の

^{くず ち こころ われらりゅうこく ゆ すえ}崩れ散りにし心をよみて 我等龍谷 行く末を

^{りゅうこく はな さ}ああ、龍谷の花ぞ咲かなん

<表紙解説>

表紙は「創部 30 周年記念誌」を継承し、龍谷大学のシンボルであります「大宮学舎本館(重要文化財)」と創部時に故・澤山宗海宗家に字を頂きました「和」の部旗を、裏表紙中央には、拳法をご教示頂いた故・乾龍峰師範の筆による「龍谷大学拳法部」の看板、左に龍谷大学の校章、右に拳法部(初期)の徽章を掲載いたしました。これらは龍谷大学日本拳法部の心のよりどころとなっております。背景には龍谷大学の新しい学舎をイメージしてレンガの模様を配しました。

また、「藤友クラブ」の名称は、本願寺の御紋である「下がり藤」の「藤」の一字を頂いて「藤」のもとに集う友のクラブ、藤友クラブと名付けられました。

龍谷大学学友会体育局日本拳法部
創部 40 周年 記念誌

平成 16(2004)年 2 月 発行

編集：龍谷大学日本拳法部 OB 会

藤友クラブ